

---

# 爆笑ランド・スペシャル

ごはんライス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

爆笑ランド・スペシャル

### 【Nコード】

N8144X

### 【作者名】

ごほんライス

### 【あらすじ】

2000字設定。バンドオンザラン形式。

笑える。35歳なのに時給750円。意外性がありすぎて爆笑。漫画の世界だ。支離滅裂。

普通、35歳くらいだと、フルタイムで働いて36万円なんだけど、アルバイトだと12万円。うはははははははははは。おもしろい。おもしろすぎる。おもしろすぎて腹痛い。涙が出てくる。

問題はいつ国会議事堂を爆破するかだな。早く国会議員を皆殺しにしないとイケない。早くしないと、世の中がおかしくなる。

早く常識的な国家にしたい。面白い国家はもうウンザリだ。身がもたない。

そんなことをつらつら考えながら、ともかく、正社員の面接を受けに行かないとイケない。国家が変わる前にまずは、収入を何とかしないと。

小説が好きなので、小説株式会社の面接を受けた。

「ふうむ。なかなか笑顔がすてきですね。しかし、うちは作品勝負です。笑顔は関係ありません。明日、筆記試験を行うので、会場に来てください」

スーパールのアルバイトは笑顔が要だし、塾のアルバイトもまあ生徒に対してはニコニコはしないとイケないので、衝撃を受けた。笑顔が関係ない仕事なんてあるのかと。

会場にはすごい数の人がいた。すごい熱気だ。みんな目が燃えている。殺気立って、鬼気迫る。みんな敵をぶち殺す兵士の顔だ。笑顔のオレが浮いてる。

「うは。これ何人くらいいるんですか」

「1300人くらいだよ」

うはあ。オレ受かるかなあ。心配だ。まあでも、才能があるから

大丈夫か。

紙が回される。設問があり、「主人公がオカマで暴力的性格の場合、暴力的なオナベとケンカすると、どういう展開になりますか。原稿用紙5枚で書きなさい」とある。

なかなか難しい。時間は一時間だという。微妙だな。

落選した……。

仕方ないので、別の正社員の面接を受けに行った。オレを入れて三人がいた。

「これは楽勝だな」

落ちた……。

あきらめず、また別の正社員の面接を受けに入った。やはりオレを入れて三人がいた。

落ちた……。

また受けたが、同じ……。

「なぜだ」

不思議に思い、ネットで調べると、非正規労働者は現在1700万人いて、全労働人口が5400万人なので、三人に一人が非正規なのだそう。1985年の段階だと、600万人。

また、小説も検索してみた。すばる文学賞が1300人くらい、電撃小説大賞が5000人くらい、毎年応募するのだそう。すごい倍率だ。

オレは踏み切りの前に立つ。もう死んでしまいたい。このままじやずっとアルバイトだ……死ぬまでアルバイトだ……。

苦悩する日々。オレはいつたい何をしとるのか。35にもなってアルバイト。明日もアルバイト。明後日もアルバイト。疲れる。

小説。なかなか上手くない。すばる文学賞に落選。文筆仲間とも断交。未来が上手く描けない。

陰鬱たる気分になり、たまにオレは、放火をしたりする。家が燃えるのを見るのは気持ちがよくってストレス解消になる。今日もした。アルバイト先にいやな上司がいて、そいつの家を燃やした。隣にも火が移ったがご愛嬌。

あははははと笑いながら、かすかに勃起している。我ながら危険な男だ。よい子は真似をしないように。

燃える。燃える。燃える。全部燃えちまえ。憂鬱な気分など燃え散ってしまえ。

オレは留置場にいる。まあ当たり前のことである。どんな事情があるにせよ、犯罪行為を公安は許さない。

格子窓の外では、月が悲しげな表情をしている。オレは陰鬱だ。いったいいつアルバイトを辞めることができるんだ。一生か。一生アルバイトをやらないといけないのか。オレももう35だ。いよいよ後がない。すばる文学賞に落選したことは大きな痛手となった。いったいどうすればプロ作家になれるんだ。頭を抱える。壁をどんと殴る。拳から血が出る。

陰鬱陰鬱陰鬱陰鬱陰鬱陰鬱陰鬱陰鬱陰鬱陰鬱陰鬱陰鬱陰鬱陰鬱

悲しき日本経済の犠牲者。

オレは留置場を出たのちもアルバイトをしないとイケない。

ビデオボックスから出て、近くの某松屋へ。朝である。

アルバイト募集の垂れ幕。

某松屋は、あなたの笑顔を求めています、みたいなことが書かれてあった。

時給900円。確かにがんばってる方かもわからん。努力してる方かもわからん。うちのスーパーなんて時給750円。

時給900円だとフルタイムで週5働いたとして、36000円。月収144000円。笑顔にはなれんわなあ。家賃が5万。健保年金が確か24000くらい。笑顔は難しいぞ。月に36万はいる。ビデオボックスの本社勤務はそれくらいだ。

案の定、学生アルバイトがいきなり、客であるオレに対してため息つきよった。無論、笑顔は一切なし。水の置き方も投げやり。客を客と思つたらん。

実に不愉快。まあ確かに客が多くて忙しそうではあった。しかも時給が1000円以下。笑顔は難しい。旨いはずの定食が不味く感じられた。

結局、賃金を下げて困るのはお客様なんだ。

お客様が困れば、売上が落ちて、会社が困るんだ。

そこを経営者は考えんと。頭が悪いから、そこまで頭が回らない。至急、賃上げを。倒産しないために。

付記

ただ低価格を考えるとさらに難しい。賃上げしても、価格を上げたら、客足が遠退き、倒産する。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8144x/>

---

爆笑ランド・スペシャル

2011年10月22日16時20分発行